

特集

第13回全国ケアワーカー集会2008

ケアワーカー、利用者、地域の連帯で、人間の絆の回復、人間的介護の復権を実現しよう!

2008年10月25日～26日、日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会主催、ワーカーズコープ・センター事業団、NPOワーカーズコープ、日本高齢者生活協同組合連合会、協同総合研究所などの共催により、第13回全国ケアワーカー集会が開催された(1日目377人、2日目320人)。

「ケアワーカー、利用者、地域の連帯で人間の絆の回復、人間的介護の復権を実現しよう!」のスローガンで開かれた集会では、介護保険制度を市民・働く者の手で、利用者・

市民本位のものに改革しよう、制度の枠を超えて、地域での真のコミュニティケアを創造しよう、という熱い思いに溢れるものとなった。



■開催趣旨

雇用破壊と格差・貧困の拡大、年間2,200億円もの社会保障費の削減と給付抑制政策、さらには資源の高騰と物価上昇等の生活不安が増す中で、地域においてさまざまな困難を抱える人々の増大とその孤立化、分断の状況が広がっています。介護保険制度をめぐるのは、2006年の制度改正以降、サービスの抑制、特に軽度者と生活支援の切り捨ての流れが強まり、「介護の社会化」の理念を喪失しつつあるこの制度の改善を求める切実な声が、高まりつつあります。

さらには、医療・介護の現場の人材不足が深刻化し、待遇の改善と、働く人の成長・発達を支える環境づくりが社会的に喫緊の課題になっています。

2009年の制度改正を前にして、今回のケアワーカー集会は、利用者、家族、地域の人々、ケアワーカーが抱える困難と改正に求めるものを当事者として声をあげ、その声を政府に届け、国の政策を転換させること、また、地域で連帯を深め、今の社会的困難に立ち向かうコミュニティケアを創造する契機にしたいと願い開催します。

- ①利用者、家族、ケアワーカーが今抱えている困難や願いを声にし、共有し合おう。
- ②この困難を生み出している社会的背景と制度・政策の矛盾の本質に目を向け、人間の尊厳を中心に据えた社会保障制度に変革していくために何が必要か、その展望を見出そう。
- ③市場原理を超えて、利用する人とサービスを提供する人が手をつなぎ、本当に人間らしい関係で結ばれる介護を地域から創り出そう。
- ④今こそ、「介護の社会化」の理念を高く掲げ、地域、市民が主体となって地域で支え合い、人間の絆を深めるコミュニティケアを創造しよう。
- ⑤政府の政策を真に利用者、家族、ケアワーカー、地域のための政策に変えるために、皆の声を厚生労働省に届け、意見を反映させよう。